

2024 AUTOBACS SUPER GT Rd.4 FUJI GT 350km RACE REPORT



SUPER GT 2024 第4戦富士 レースレポート

開催日：予選 8月3日／決勝 8月4日

開催地：富士スピードウェイ

予選レポート

8月3日の富士スピードウェイは、真夏らしいという言葉を超えた猛暑となった。公式練習の開始時間である午前9時には、気温は30℃に迫り、予選Q1の最初の走行であるB組が始まる14時30分には、気温は33℃。路面温度は、なんと54℃にまで達していた。

その予選であるが、公式予選前に行われたFIA-F4第5戦の決勝レースで、コース上にオイル漏れが発生。この処理のため、5分遅れの14時30分からスタートとなる。オイル漏れの処理は終わったが、この路面状況の悪化を考慮して、2組で分かれて走行を行うGT300クラスでは、「WET宣言（濡れた路面）」時と同様のフォー



マツで行うこととなった。

これは、今シーズンに採用されているQ1とQ2の合算タイムによる順位決定ではなく、Q1結果でQ2の組み分けを行いQ2のタイム順位で予選順位を決定するという方式である。また今回は、Q2でのグループ1（Upper16）、グループ2（Lower17）間での入れ替え特別ルールは行われない。

14時48分にその予選Q1のA組がスタート。9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」で、予選Q1を担当するドライ

バーは富林勇佑選手。前戦鈴鹿では初のUpper16進出を果たしているのですが、この富士戦でも大きな期待がかかるものの、午前中のフリー走行から細かいトラブルが頻発していたために不安が残るところも否めない。結果的にブレーキ系、特にABSの作動問題によりタイムを伸ばすことができず、8位以内に入ることができなかった。そして、Under16として予選Q2へ臨むこととなってしまった。

予選Q2までのインターバルでは修復作業もままならず、阪口良平選手も同じトラブルを抱えた状態での走行となってしまった。しかし、こんなトラブルを抱えた状況下であっても丁寧な走行でラップを重ねることで少しでも前のグリッドからスタートしようという姿勢は胸を打つものがあった。そのおかげか、最後尾スタートは免れ、後方に2台を従える25番グリッドからスタートとという位置を確保したのであった。





決勝レポート

8月4日、第4戦決勝日の「富士スピードウェイ」には、2日間述べ約5万2千人という観衆が詰めかけた。これは、昨年比で103%という数字で、高まるSUPER GTの人気を表しているものであると言える。天候は予選日と同じく晴れで、気温もかなりの勢いで上昇していった。その気温は決勝レースのフォーメーションラップスタート時で、予選日を超えた35℃、路面温度は56℃となっていた。

そんな中、14時30分に静岡県警察の白バイ9台、パトロールカー4台が先導しての交通安全啓発活動のパレードラップからフォーメーションラップ、そしていよいよ350kmの距離制レースが始まった。

GT300の25番グリッドから上位を目指す9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」のスタートドライバーは富林勇佑選手。

スタート直後のTGRコーナー（第一コーナー）までに、順位をひとつ上げて24番手となる好走を見せてくれた9号車





「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」。このまま、快進撃を繰り広げてくれるのか?と期待をかけたその刹那、再び調子を崩してピットインをしようとした1周目のピットロード入り口でマシンが止まってしまう。

マシンは駆動系、デフギアのトラブルによりチームはレースを断念。リタイアとなってしまった。アップデート絡みのマイナートラブル頻出をひとつずつ丁寧につぶしていった結果、スタートラップで順位

を上げてきたところでのマシンストップは残念でならない。しかし、徹底したトラブル潰しをしてきたことで次戦の第5戦「鈴鹿350kmレース」では大きな飛躍が遂げられるであろう。





Comment



エントラント代表 神野元樹

スタート直後に一つ順位が上がったところでのリタイアは残念でしたが、トラブルはほぼ出尽くしたと思われるので、チームは前向きに次戦の鈴鹿に向けて取り組んでいます。

阪口良平 選手

予選日午前の公式練習フリー走行から出てきた細かいトラブルを、決勝レースまでにつぶしきれなかったのが残念ですが、マシンの素性自体は悪くないのでトラブルさえ解決すれば、次戦はいいところへ持っていけると思います。



富林勇佑 選手

制御系、ブレーキのABS、その他さまざまなトラブルでフリー走行から思った走行ができない状態でした。それらを1個1個取り除いていったところで、最後にデフのトラブルとなったというのが今回のレースでした。ただし、トラブルはもう出尽くしたと思われるので前向きに次戦へ取り組んでいきます。



藤原優汰 選手

フリー走行で乗っただけとなってしまった今回のレースでしたが、トラブルの種は全て取り除いたと思われるので、次の鈴鹿戦では決勝レースを思う存分走りたいと思います。

